

2019年度全国高校野球OBクラブ連合理事会（第2回）

日 時： 2019年8月10日（土）13:00～15:00

場 所： 神戸ポートピアホテル（南館B1F ルビー）

出席者： 戒能、前崎、高山、北野、長ヶ原

欠席者： 宝槻、小川

事務局： 彦次、松村、松崎、乾、山下

議 題：

- 1) 2019予選大会途中経過について
資料1：本大会プログラム
- 2) 2020-2022シリーズ申請枠について
資料2：2020-2022シリーズ
資料3：申請枠登録申請書案
- 3) 全国高校野球OBクラブ連合の運営について
資料4：加盟状況
資料5：定款・細則
- 4) その他

議事録

13:08より長ヶ原理事長（以下、理事長と称す）の挨拶と次第内容および理事出欠者の確認により開会。

議題1）2019予選大会途中経過について（資料1：本大会プログラム）

理事長より資料1に基づき、第16回マスターズ甲子園2019の代表OB校・各種プログラムについて説明された。理事長より、大阪府大会が8月31日に開催され、代表決定戦の勝者が本大会へ出場となる旨が報告された。また、宮崎県大会は、10月中旬に決勝戦が開催されることに伴い、大会事務局から本大会に向けたガイドブック作成に関わる要項及び大会出場関係書類を出場チーム及び県幹事に送付した旨が報告された。理事長より6月21日（父の日）より応募が開始された「マスターズ甲子園2019 甲子園キャッチボールプログラム」の応募数が現時点で約250ペアである旨、また「大会ボランティア」の応募数が約150人であることが報告された。

議題2）2020-2022シリーズ申請枠について（資料2：2020-2022シリーズ・資料3：申請枠登録申請書案）

理事長より資料2・3に基づき、2020-2022シリーズ申請枠について説明された。現時点の全国高校野球OBクラブ連合加盟状況を踏まえると、2020大会（第17回大会）への申請枠には、秋田県と香川県が加わり29リーグの申請が予測できる旨、それに伴い、2021大会（第18回大会）追加枠が11枠になる可能性がある旨が報告された。高山理事より、関東ブロックの新規リーグ開設の動向について報告され、山梨県が新規リーグ開設に向けた動向を見せており、1・2年の間に8校以上の加盟から、2021大会（第18回大会）の追加枠への申請が期待できる旨が報告された。

理事長より、資料3（申請枠登録書案）に基づき、フォームAに明記されている確認事項、フォームBに記載されている加盟校登録内容の記入方式について説明された。理事長より、フォームBチーム申請書記入欄において、新設校及び統廃合校による合併チーム（3校で1チーム）による登録の際は、上限は3校であり、また各OB校単位で年会費納入した上での活動となることの再確認があった。高山理事より、地方予選リーグにおいて、人数不足に伴う合併チームによる参加の場合は、それぞれの高校からの加盟・年会費を納入する必要性が指摘された。彦次事務局長より、統廃合校においても年会費を納入することで全国高校野球OBクラブ連合に高校名を残すことの可否について確認され、各理事の協議の結果、年会費納入することで、統廃合校の名称を残すことで一致した。理事長より、秋田支部から問い合わせがあった合同チーム名の表記（旧高校名・新高校名）についても、これまでの規則に準じて加盟OB校が複数校で合同チームを作る際には、旧・新高校名を組み合わせることを認めた上で、合併校についても1校とカウントし加盟する必要があることが確認された。理事長より、今後の全国高校野球OBクラブ連合加盟の手続きに当たっては、登録フォーム内に選手数を記入する欄において、34歳以下カテゴリー（14名以上）、35歳以上カテゴリー（15名）の必要人数を明記し、且つ統廃合による各年齢カテゴリーの人数召集が困難な場合については、注意書きで事務局への問い合わせを進める記載を行うことで一致した。彦次事務局長より、全国高校野球OBクラブ連合加盟方法ページ内の予選大会参加基準の表記方法について指摘があった。各理事の協議の結果、加盟校数による予選大会出場への表記方法（8校以上の加盟校がある場合）については、過去の大会での実績を踏まえ、引き続き協議を進めていくことで一致した。理事長より、マスターズ甲子園2020—2022シリーズ申請枠応募に関する資料送付については、各加盟校の登録情報の確認と更新も含め、全国高校野球OBクラブ連合加盟41都道府県幹事に向けて送付することが提案された。各理事の協議の結果、各リーグからの登録申請状況について管理性と確実性を考慮し、事務局より41都道府県幹事へのデータ送付は、データ便によるメール添付を通じて行うことが了承され、8月下旬の送付予定が確認され、全会一致した。高山理事より、年会費徴収の基準について、事業年度を考慮すれば、12月31日時点での加盟校を年会費対象とすることが指摘された。戒能理事より、6月末の年会費納入期限以降の新規加盟校については、加盟費の納入と同時に年会費納入する旨が提案された。松村副事務局長より、8校未満のリーグに対しての年会費納入基準について指摘があった。各理事の協議の結果、3月末以降の年会費の納入について、8校以上加盟のリーグにおいて新規に加盟したOB校は加盟費の納入に加えて、当該年度の年会費についても納入をすること。また、8校未満の未開設リーグについては、8校以上の加盟で新規リーグ開設後に年会費納入対象になることが確認された。また、2020—2022リーグ申請書についても、登録要件として既存加盟OB校に加えて、申請枠の期限（10月11日）までに、新規加盟校も年会費納入済みであることを明記することで一致した。

議題3）全国高校野球OBクラブ連合の運営について（資料4：加盟校一覧・資料5：定款・細則）

前崎理事より、九州ブロック会議にて議論された、2020—2022シリーズにおけるブロック枠獲得をめぐる、未開設リーグ（8校未満）の年会費の納入による出場権利の有無、3県（大分・長崎・佐賀）合同チームによるブロック枠出場権利について説明された。戒能理事より、未開設リーグのブロック枠獲得を考慮した際には、年会費納入および大会ルールを見直す必要性が指摘された。また、彦次副実行委員長より、未開設リーグ（8校未満）のブロック枠への申請権の与える場合は、2020—2022シリーズに限定する必要性が述べられた。各理事の協議の結果、2020—2022シリーズにおいては、ブロック大会を契機にした新規リーグ開設を目指すことを条件に、今後の理事会にて8校以

下の未開設リーグの2022大会ブロック枠への申請権獲得について引き続き審議することで一致した。また、他県合同チームのブロック枠出場権利についても、次回の理事会で引き続き協議していく方向で一致した。

以上をもって議案の審議が終了し、理事長により15時07分に散会